

編集 後記

6月号は、特別論文1、公衆衛生活動報告1、研究ノート1、資料1の構成となりました。特別論文の題は「CDCに学ぶ情報モニタリングとコミュニケーション」ですが、正確な健康・疾病モニタリング、健康危機対応、リスクコミュニケーションなど、日本で同様の機能による対応機能の強化の必要性を考えさせられ、同時に、そのような場所で、日本公衆衛生学会資格の認定専門家や公衆衛生大学院修了者などの活躍が増えるようになることを期待したいです。次に、肥満に関連して減量効果についてと、小児については瘦身も含み、年齢、時代、コホートの影響を検討した合計2編ですが、健康日本21の第二次でも引き続き重要な課題であり、特に小児期からの食事・運動習慣についても実践的な研究が必要と思われます。最期の資料も定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの基礎資料となる実践的で重要な研究と考えます。

私も編集委員になって5年目ですが、本雑誌の扱う領域は広いので勉強させていただきながら担当しているような状況です。会員・読者の皆様もぜひ本誌を活用し、ぜひ、積極的に自らの研究を投稿くださいますようお願いいたします。

(西條泰明)

次号予告 (第60巻・第7号)

原著

重症心身障害児・者を介護する母親の生産的
社会活動が介護負担感と主観的健康状態との
関連に与える影響……………矢次佐和, 他

公衆衛生活動報告

働く世代のがん検診未受診者対策の有効性
……………菅原彰一, 他
秋田県鳥海町における住民主体型の
歯科保健活動による乳歯う蝕の減少……………田村光平, 他

研究ノート

離島で暮らす高齢者の在宅療養・死亡場所にか
かわる特徴
入院施設の有無に着目して……………堀越直子, 他